

《認知症初期集中支援チームによる支援》

初期集中支援チームとは

複数の専門職が家族の訴え等により認知症が疑われる人や、認知症の人及びその家族を訪問し、アセスメント（その時点の状況の評価・把握）、家族支援等の初期の支援を包括的・集中的（おおむね6ヶ月）に行い、自立生活のサポートを行うチームです。

地域包括支援センターや市町村、診療所や病院等に配置されています。（県内市町村の配置先は、[かながわ認知症ポータルサイト](#)をご覧ください。）

♥たとえば、このような支援を行います♥

Aさんのケース

- ・もの忘れの症状がひどくなってきたが、受診拒否。
- ・介護サービスの利用も拒否。（介護保険は未申請）
- ・本人が夜、外に出て騒ぎ、近所迷惑が心配。
- ・家族への暴言・暴力が頻繁になってきた。
- ・入浴を拒否している。

相談

地域包括支援センター

- ・家族などからの相談を受け、認知症初期集中支援チームに“支援対象者”として紹介しました。

紹介

認知症初期集中支援チーム

- ・医療・介護の専門職（保健師、看護師、介護福祉士、社会福祉士、精神保健福祉士等）が認知症サポート医の助言指導を受け、認知症地域支援推進員とも連携を図りながら、支援を行っていきます。
- ・本人、家族の課題や、支援にあたっての課題、チーム外から協力を得られるか、など評価し、対応方針の目標設定などを行います。

Aさんへの具体的な支援例

①医療受診の支援

- ・家庭訪問を行い、受診勧奨・受診同伴を計画。
- ・家族には、かかりつけ医に相談し、状況を共有してもらうことを依頼。
- ・かかりつけ医からは、「心配な点があるので」と専門医への受診勧奨を実施。
- ・後日専門医を受診し、薬の内服を開始し、かかりつけ医の受診へ戻った。

かかりつけ医

連携

認知症疾患
医療センター

②介護サービスの支援

- ・ケアマネジャーに依頼。
- ・本人に介護サービスの利用希望がないため、通所介護などの利用を検討したが利用拒否。本人の様子を見ながら、利用について調整を継続する。
- ・通所介護事業所には、送迎の工夫などにより、少しずつ拒否なく利用できるようになった。

③家族の関わりへの支援

- ・家族には、これからの認知症の経過やサービスの必要性を伝え、本人の一時的な言動に慌てずに対応してもらうよう依頼。スタッフの力を借りながら、サービス利用ができるようになった。

→医療受診、薬の内服調整を行ったことで本人の症状は安定。家族も一時的に距離を置く時間を持つことができ、本人からの暴言なども減っていった。